

花きの県別生産出荷概況(4月見通し)

品目	県名	作付面積ha (前年比)	主な品種	4月出荷見込み 千本		主産地	4月のピーク		
				全出荷量	京浜地域		上	中	下
アルストロメリア	山形県	9.6 (95%)	レベッカ、オルガ、レモン、アバランジェ、 プッチーニ、エベレスト他	835 (106%)	291 (103%)	JA山形おきたま JA鶴岡 JAそでうら	30	30	40
輪菊	宮崎県	38.7 (91%)	神馬、山陽黄金、精の曲	300 (106%)	1 (106%)	国富、都城、こばやし、え びの市、尾鈴	30	30	40
	大分県	93a	晃花の富士	391	-	杵築	56	150	185
		120a	神馬(66%)、浜の光(6%)、精興光玉 (28%)	600	-	蒲江	10	20	30
スプレー菊	群馬県	30.6 (93%)	レミダス、セイエルザ、鞠風車	45 (83%)	32 (83%)	あがまつ	30	30	40
	鹿児島県	38.5 (93%)	ジャパン、アグリバイオ 他	1,140 (103%)	456 (103%)	いぶすき山川、そお鹿児島	30	30	40

バラ	千葉県	3.6 (100%)	サムライ、ザ・テレサ、タイタニック、ローテローゼ、ノブレス等	130 (100%)	100 (100%)	鴨川市	30	35	35
		0.8 (80%)	ローテローゼ(4割)、ロテーナ	55 (90%)	55 (90%)	神崎市	30	30	40
		3.5 (100%)	サムライ08、アマダ等	-	-	茂原市	30	35	35
	群馬県	15.3 (90%)	サムライ、アヴァランチェ 他多数品種	860 (100%)	760 (100%)	前橋市、利根沼田、甘楽富岡	30	30	40
	山梨県	4.1 (91%)	サムライ、ローテローゼ 他	210 (91%)	220 (100%)	笛吹市(御坂町)	35	35	30

品目	作柄及び概況	販売における現状と今後の見通し
アルストロメリア	気温の上昇や日射量の増加にともない、生育・開花が進み、出荷数量はほぼ昨年並の見込み。切り花品質は良好である。	<p>現状 3月上旬まで低温の影響を受けてやや数量少く推移し、中値での取引展開。中旬より彼岸需要を受けて高値で相場は推移。送別需要なども含めて引き合いは強めとなった。</p> <p>見通し</p> <p>大田花き 各産地、天候の回復から数量が急激に増加することが予想される。各色まとまった入荷となる見込み。860,000本 @50</p> <p>FAJ 4月中盤以降は出荷量増加。引合い弱まりやや苦戦した販売続見込み。</p> <p>第一花き 業務・ブライダル需要の品種の引合いは有る。特に大きな需要も少ない時期で概ね例年並みの流れ @85</p> <p>東京フラワーポート イベント需要での引き合い多くなる模様。入荷も増加。</p> <p>東日本板橋花き 愛知、青森、福島中心の入荷。前半は動きがあるが、後半は動きがない。</p> <p>世田谷花き 上旬に向けて増加。引き合いは下位中心。</p>
輪菊	<p>曇天の影響で生育状況が若干遅れている。病害虫などの発生はなく、品質は良好。規格は2L～L中心。</p> <p>日照不足、低温で遅れ気味。病害虫の被害は特に認められず生育は良好。</p> <p>日照不足、低温で遅れ気味。病害虫の被害は特に認められず生育は良好。</p>	<p>現状 お彼岸に向けて周年産地は若干の遅れ、沖縄産は、ほぼ予定通りの入荷量。国産については、上中旬まで堅調な取り引きとなる。下旬に関しては、需要も落ちていることからやや軟調な取り引きとなる。</p> <p>見通し</p> <p>大田花き 周年産地と沖縄産中心の入荷となる。白菊は、周年産地の上位等級を中心に安定した入荷となる見込み。色菊については、沖縄産が上旬がやや多く中下旬に向け減少してくみ見込み。大きな需要もないことからやや軟調な取り引きとなる見込み。</p> <p>FAJ 入荷量は例年並み。上位等級中心の入荷。品質安定。白は業務中心の動き。黄色は仏花中心。</p> <p>第一花き 特に大きな需要も無い時期、入荷バランスによるが業務需要中心の流れで例年並みの流れ。@70</p> <p>東京フラワーポート 引き合いも落ち着き、業務需要が主流での取り引き</p> <p>東日本板橋花き 特に大きな需要なく、動き鈍い 2L80～</p> <p>世田谷花き 天候にもよるが、昨年並みの入荷、単価は業務中心の動き。</p>
スプレー菊	<p>低温の影響により生育は遅れ傾向。燃油高騰により春先の出荷は減少傾向。</p> <p>JAそお鹿児島産・JAいぶすき山川ともに昨年並みの出荷量となる見込み。</p>	<p>現状 お彼岸に向けに各産地増加となるが、栃木方面は遅れている産地もあるが月中旬頃には出荷のピークとなる。上旬までは白系中心に品薄だったため堅調な取引であり、中旬は彼岸需要のため安定単価での取引であった。</p> <p>見通し</p> <p>大田花き 周年産地である愛知、栃木産は安定した入荷となり、鹿児島産はやや減少の見込み。業務需要中心の動きになるが、大きな需要無く厳しい相場展開が予想される。</p> <p>FAJ 業務中心の入荷。白の引き合いへと移行する。引き合いは全体的に落ち着く見込み。</p> <p>第一花き 業務需要中心の流れ、国産の入荷は少ない時期であるが輸入品の入荷も有り高値は出づらい時期。@50</p>

バラ	<p>春先の安定しない天候で、日照不足や夜温の低い日も多く、採花本数の増加は見込めない。加えて最近の燃油高騰により室温設定を下げた生産者もあり、採花本数の増量は昨年より遅れる見込み。</p>	<p>現状</p> <p>低温と曇天の影響で国産は遅れ気味となり、例年よりも少ない入荷状況が続く。卒業式や離退任需要により引き合いは強く堅調な取引となっている。</p>
	<p>出荷量は昨年より減少。(無加温面積の増加のため)</p>	<p>見通し</p> <p>大田花き 西南暖地は遅れていたものがピークをむかえ、入荷増の見込み。高冷地など冬季加温をしていなかった産地に関しては、下旬以降出荷がピークをむかえる見込み。</p> <p>FAJ 気温と日照量増え、入荷量は増加傾向。弱保合相場で推移する見込み。</p>
	<p>生育は順調。ボリュームのあるしっかりとした花を出荷している。炭酸ガス施用により、茎が硬くしまったものになっている。</p>	<p>第一花き 特に大きな需要も無い時期、入荷バランスによるがブライダル・業需要中心の流れで例年並みの流れ。SP@120 SD@110</p> <p>世田谷花き 入荷量は、上・中旬より増える見込み。相場は入荷量次第だが、上旬までは順調に動く予想。</p>
	<p>生育は順調で品質も良好。出荷量は、無加温ハウス面積の増加のため前年より減少。</p>	<p>東京フラワーポート イベント需要等での動きに期待したい。入荷も昨年並。</p> <p>東日本板橋花き 需要はひと段落し、入荷量も増加してくるため、販売は苦戦しそう。</p>
	<p>気温上昇に伴い切り花本数が増加している。生育順調。</p>	